



FSSI  
Research Report

Kanazawa University

2022. 7

---



## 金沢大学の科研費の申請支援について

今年もいよいよ科研費の申請時期がやってきました。要項は8月上旬（例年は1日）に日本学術振興会のサイトに公表予定です。本号では申請にかかる支援情報をお届けします。

### I. 本学の科研費支援について

金沢大学では、科研費の採択率の向上のために様々な支援を実施しています。今回のレポートではそれらの支援についてご紹介いたします。

本レポートに関するリンク先一覧 ([リンク](#))

- 戦略的研究推進プログラム
- 科研費採択申請書の公開
- 申請書作成マニュアル、作成解説および講演動画

### I. 採択された申請書の公開

採択された申請書を採択者の方々の御厚意により、一部公開しています。ただし、目的外の使用は厳禁ですのでご注意ください。基盤研究（B）、（C）、挑戦的研究（萌芽）の3種目を公開しています。

採択申請書の公開は[こちらから](#)。

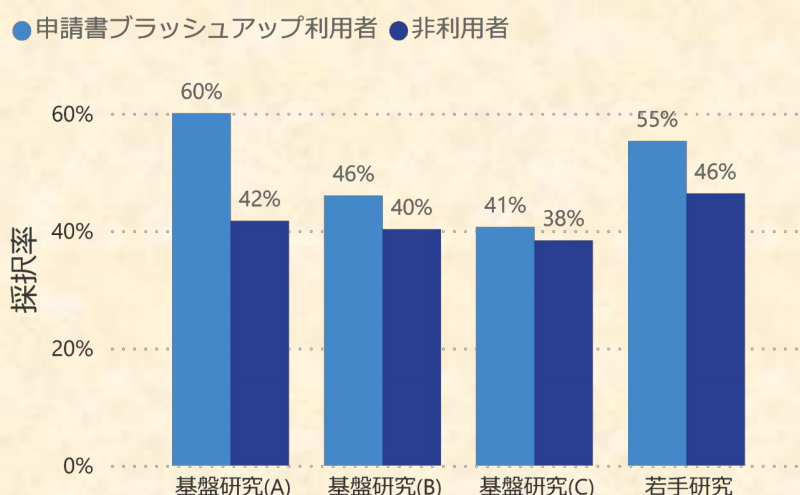
### II. 申請書作成マニュアル本

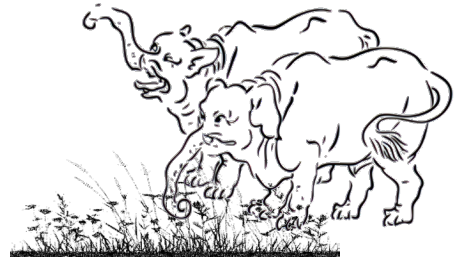
科研費申請の必読本と言われている「科研費の教科書」を本年度リニューアルいたしました。科研費の制度から、申請書の書き方のコツや相談窓口一覧まで、痒い所に手が届く全65ページの大作となっています。

科研費の応募が初めての方や経験が少ない方を含め、全対象者にとってためになる情報が満載です。サイトは[こちらから](#)。



図1. FSSIによる申請書ブラッシュアップ支援の効果





### III. 申請書作成の解説動画

科研費の応募歴が少ない方のために、URA が作成した申請書作成のための解説動画を公開しています。各動画は5分程度で閲覧できるようにまとめられています。動画は[こちらから](#)。

研究課題の核心をなす学術的「問い」は何ですか？

審査区分が広がっている → 比較的分野の選れた審査員からもこの研究で何をしたいのかわかるように

**課題の核心をなす学術的「問い」**  
この研究で取り進む具体的な課題よりもう少し広めの課題であり、普遍的な課題よりも具体的な問い  
→ 研究分野全体を俯瞰したときに課題として認識される本質的な問い  
審査員が確かに、「それは解決しないといけないresearch questionである」と考えるか？

**この研究の目的**  
この研究課題で具体的に明らかにすること 学術的「問い」の全てである必要はなく、その一部でもよい

**学術的独自性と創造性**  
着眼点、手法など

**課題の核心をなす学術的「問い」 ≠ この研究の目的**

### IV. 審査員及び採択経験者のセミナー資料

2021年に審査員経験者の方々に、審査に関する考え方や審査の視点等を解説いただきました。その時の講演資料を公開しています。審査の裏側を知ることができる大変貴重な資料です。また、採択経験者の方々の、採択のために気を付けたこと等についての講演資料も公開しています。

#### 講演資料が公開されている審査員経験者一覧

- [絹谷 清剛](#) 教授 (医薬保健研究域医学系)
- [星野 伸明](#) 教授 (人間社会研究域経済学経営学系)

#### 講演資料が公開されている採択経験者一覧

- [松本 翼](#) 准教授 (ナノマテリアル研究所)
- [安永 大地](#) 准教授 (人間社会研究域歴史言語文化学系)
- [酒田 陽子](#) 准教授 (理工研究域物質化学系)

公開資料は[こちらから](#)。

### FSSIによる申請書のブラッシュアップ

毎年 URA による申請書の添削を実施しています。添削の有無により採択率が 10~20%程度上昇するこ

とが統計的に示されています(図1)。第三者からの視点で申請書が改善できる良い機会ですので、機会があれば、是非利用を検討してみてください。

参考リンク先は[こちらから](#)。

### 本年度の注意点

本年度の申請に関係する主な変更点を挙げます。

- ・ 小区分に付される「内容の例」の見直し
- ・ 若手研究(2回目)と挑戦的研究(開拓)の重複制限緩和
- ・ 研究活動スタート支援の応募要件の変更  
詳細は[こちら \(PDF\)](#) をご参照ください。

### お詫び

先月号にて下記の学内データを、「希望者に試行的に一部公開」としておりました。しかし、多くの方が希望され、閲覧用ライセンス数が足りなくなりました。そのため、公開を一旦停止させていただいております。今後改めてライセンスが不要な形でのサイト公開を11月に行う予定です。閲覧を希望された方には、大変申し訳ございませんが、サイトの公開までもうしばらくお待ちください。



図2. 研究力分析ツールを利用した研究者(架空)の研究業績検索結果のデモ画面